

## お薬手帳及びポリファーマシーに関する啓発事業結果について

## 1. 概要

- 福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会の事業の一環として、ポリファーマシーに関する啓発事業を福岡県薬剤師会を通じて下記のとおり実施した。
  - ・ 概略
    - 薬と健康の週間（令和元年10月17日（木）～23日（水））に来局した65歳以上の男女（以下、「対象者」という。）に対し、服薬指導時等にお薬手帳及びポリファーマシーに関する質問と、それに基づく啓発活動を行う。
  - ・ 方法
    - (1) 協力いただける対象者に対して、薬剤師が別添様式に記載の質問をし、その回答状況等に応じて、お薬手帳の正しい使用方法やポリファーマシーに関する正しい知識を理解してもらうための啓発を行う。
    - (2) 啓発活動を行った対象者ごとの状況について、各薬局が県の web 上で報告。
- 今回、当該事業の結果がとりまとまったので、その結果を報告するもの。

## 2. 結果

○回答数は2,883名分であった。

○啓発対象者の年齢、性別の構成について、福岡県の人口構成と比較したところ、性別についてはおおむね人口構成比どおりであったが、年齢については75歳以上にやや偏っていた。これは、本事業がポリファーマシーの啓発ということだったので啓発すべき対象がより高齢の方に偏った結果だと考えらえる。

表 1：啓発対象者の年齢及び性別の構成

	女性	男性	総計
65～74歳	747(25.9%)	550(19.1%)	1,297(45.0%)
75歳以上	1,049(36.4%)	537(18.6%)	1,586(55.0%)
総計	1,796 (62.3%)	1,087 (37.7%)	2,883 (100%)

表 2：平成 30 年福岡県人口の年齢及び性別の構成

	女性	男性	総計
65～74歳	376,296(27.1%)	327,860	704,156(50.7%)
75歳以上	432,859(31.2%)	252,455	685,314(49.3%)
総計	809,155 (58.2%)	580,315 (41.8%)	1,389,470 (100%)

○現在服用中の薬剤の種類は 15 種類以上を除き、おおむね均等にばらついていた。定期通院している診療科は 1 診療科と 2 診療科で 7 割以上を占めていた。また、受診する診療科が増えるほど、服薬する薬剤数が増えることがわかった。

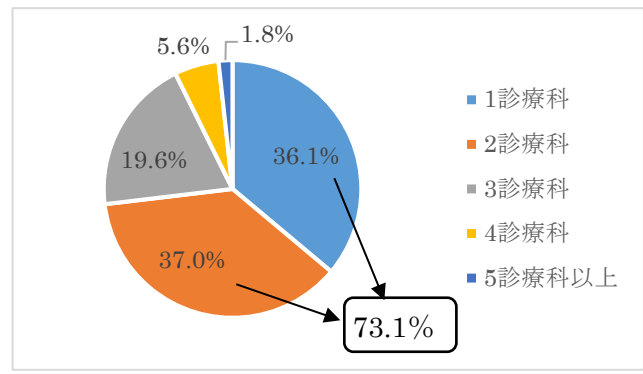
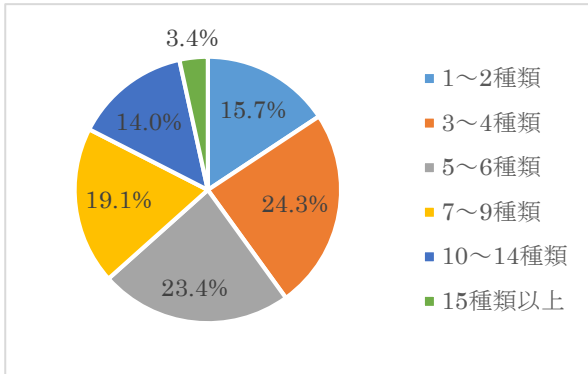


図 1 現在服用中の薬剤の種類 (n=2,855)

図 2 定期通院している診療科数 (n=2,856)

表 3 定期通院している診療科と現在服用中の薬剤の種類の数 (n=2,832)

※赤字は各行で最も多いもの

	1~2種類	3~4種類	5~6種類	7~9種類	10~14種類	15種類以上	総計
1診療科	<b>327</b>	302	199	115	71	9	1023(36.1%)
2診療科	82	268	<b>302</b>	239	133	27	1051(37.1%)
3診療科	26	90	127	<b>149</b>	133	28	553(19.5%)
4診療科	5	27	27	36	<b>44</b>	17	156(5.5%)
5診療科以上	2	3	6	7	<b>17</b>	14	49(1.7%)
総計	<b>442</b>	<b>690</b>	<b>661</b>	<b>546</b>	<b>398</b>	<b>95</b>	<b>2832</b>
	(15.6%)	(24.4%)	(23.3%)	(19.3%)	(14.1%)	(3.4%)	(100%)

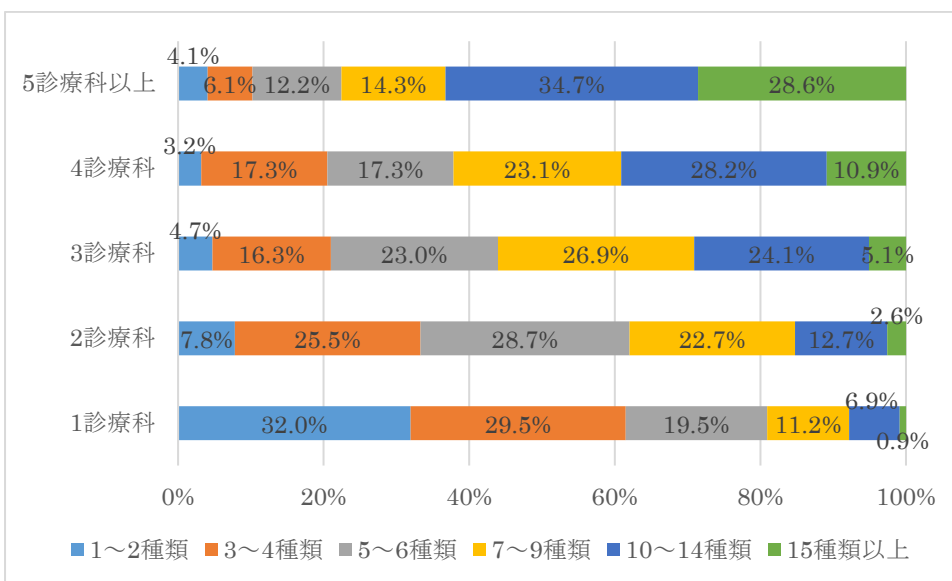


図 3 定期通院している診療科数ごとの服用薬剤数の割合 (n=2,832)

○また、服薬数については、厚生労働省「平成 30 年社会医療診療行為別統計」と比較すると今回の対象者の方が薬剤数が多かった。

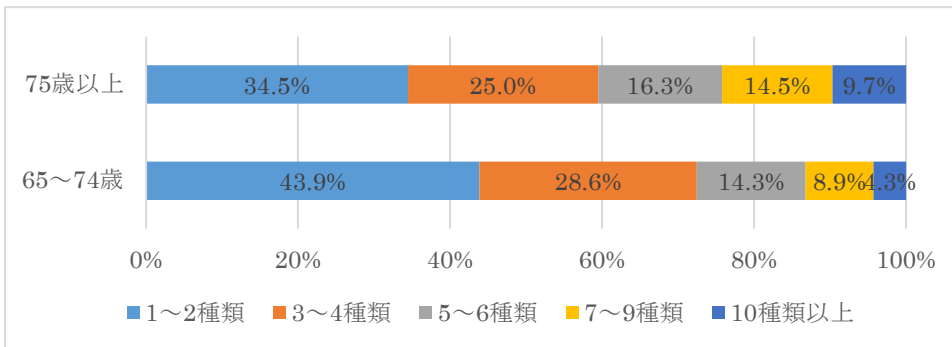


図 4 厚生労働省「平成 30 年社会医療診療行為別統計」をもとに作成した年齢層別の薬剤数の割合 (75 歳以上 n= 15, 436, 601、65～74 歳 n= 10, 854, 821)

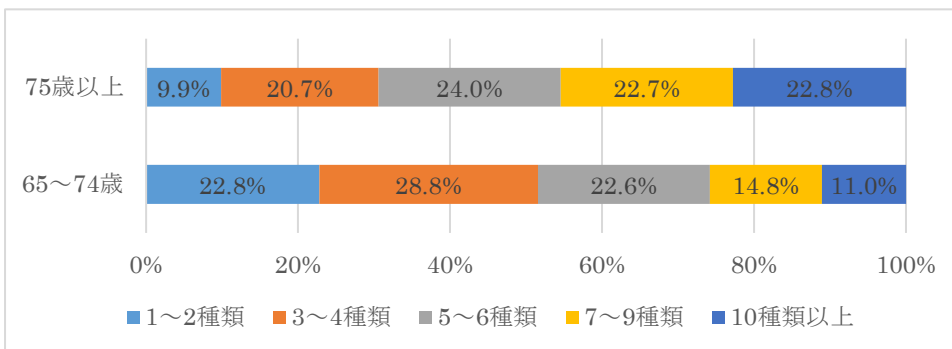


図 5 今回の対象者における年齢層別の薬剤数の割合 (75 歳以上 n= 1, 569、65～74 歳 n= 1, 286)

○お薬手帳の持参状況は、1冊のみ持っている患者が 94.4%だったことからほとんどの患者がお薬手帳を 1冊のみ持っている状況が分かった。なお、お薬手帳を持っていない患者は 2.1%だった。また、どの病院・薬局に行くときにも同じ 1冊を持っていく患者が 89.1%おり、ほとんどの患者が適切にお薬手帳を利用していることが分かった。2診療科以上受診の患者に絞って、お薬手帳の持参状況を見ても割合に違いはなかった。

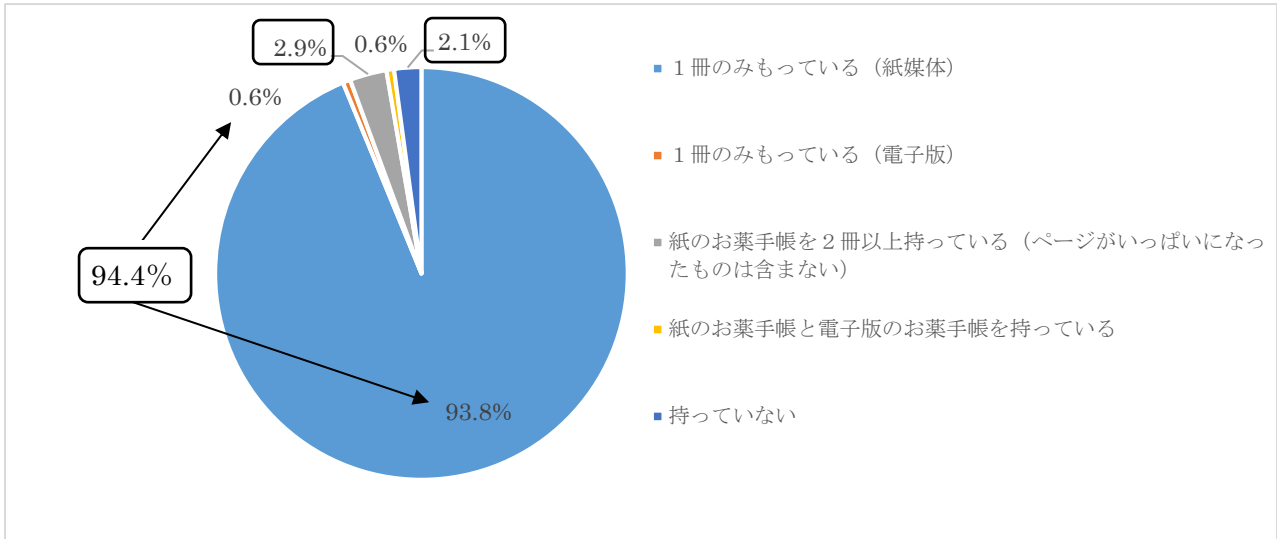


図 6 お薬手帳の持参状況(n=2,867)

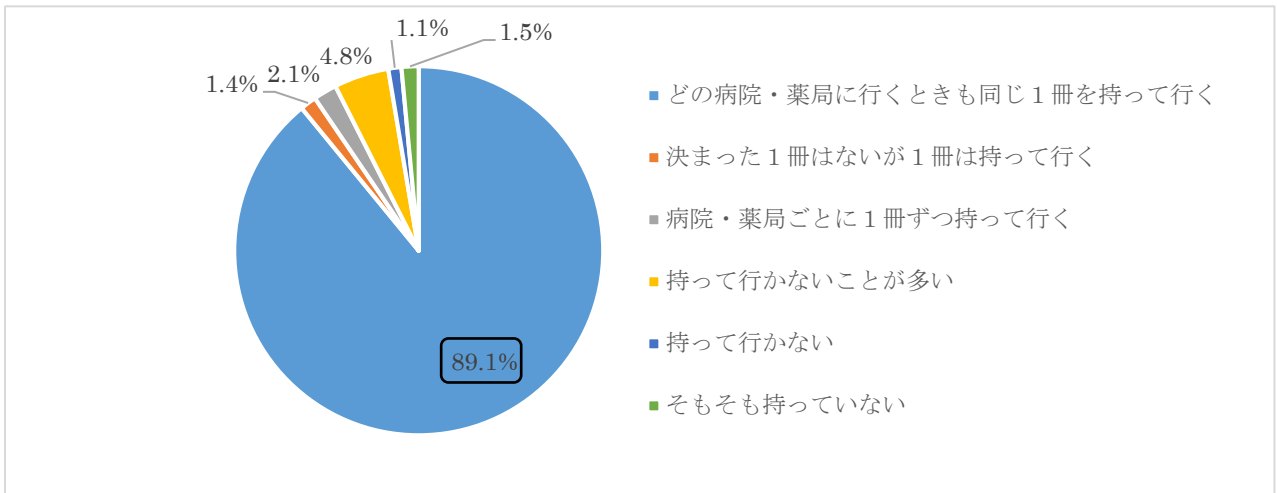


図 7 お薬手帳の使用状況(n=2,870)

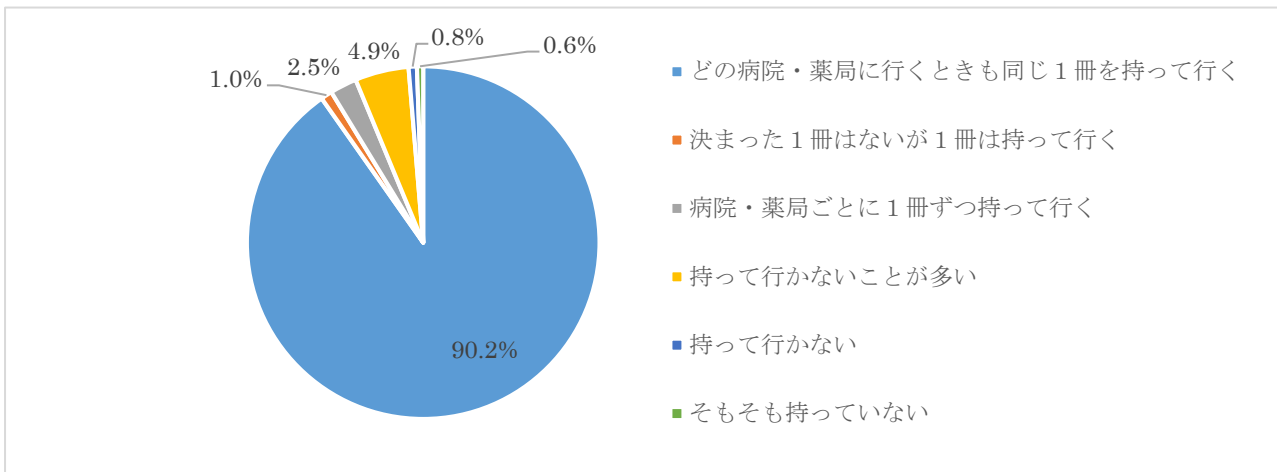


図 8 お薬手帳の使用状況（2診療科以上）(n=1,819)

○紙のお薬手帳を2冊以上持っている患者は2.9%（83人）と少なかったものの、そのうちの69.9%（58人）がお薬手帳を正しく使用できていないことが分かった。

表 4 紙のお薬手帳を2冊以上持っている患者のお薬手帳の使用状況 (n=83)

	どの病院・薬局に行くときも同じ1冊を持って行く	決まった1冊はな いが1冊は持って 行く	病院・薬局ごとに 1冊ずつ持って行 く	持って行かないこ とが多い	持って行かない
紙のお薬手帳を2冊以上持っている(ページがいっぱいになったものは含まない)	30.1%	14.5%	45.8%	8.4%	1.2%

69.9%

○お薬手帳を1冊にまとめるように言われたことがある患者は37.2%おり、そのうちの大多数が薬局で言われていたことがわかった。また、どの病院・薬局に行くときにも同じ1冊を持っていく患者が89.1%なので、それ以外のお薬手帳を適切に使用していない患者は10.9%ということになるが、お薬手帳を1冊にまとめるように言われたことがある患者の37.2%よりも少ないことから、薬局等でお薬手帳1冊化の指導により、どの病院・薬局に行くときにも同じ1冊を持っていくようになっていると考えられた。

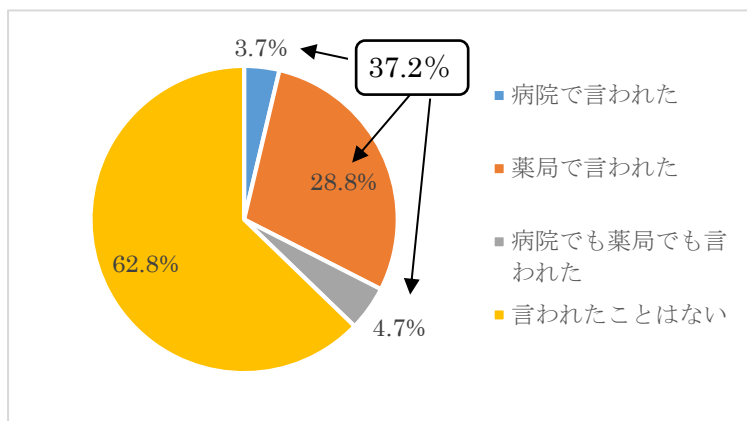


図 9 “お薬手帳を1冊にまとめるように言われたことがありますか。”に対する回答 (n=2,834)

○お薬手帳を持っている患者でお薬手帳が役に立ったことがある患者は77.2%おり、お薬手帳が役に立っていると実感している患者が多いことがわかった。どのように役立ったかについては“自分で飲んでいる薬が把握できた”が最も多く、“医師や薬剤師に飲み合わせの悪い薬に気づいてもらえた”“医師や薬剤師が、同じ薬を飲んでいることに気づいた”のように医師、薬剤師がお薬手帳を活用していると認識している患者も一定程度いた。また、“自分が飲んでいる薬について質問するようになった”や“自分で同じ薬を飲んでいることに気づけた”患者もおり、患者自身でお薬手帳の有用性を実感している患者もいることがわかった。

表 5 お薬手帳を持っている患者の“お薬手帳が役に立ったことがありますか。”に対する回答(n=2,772)

割合	
ある	77.2%
ない	22.8%

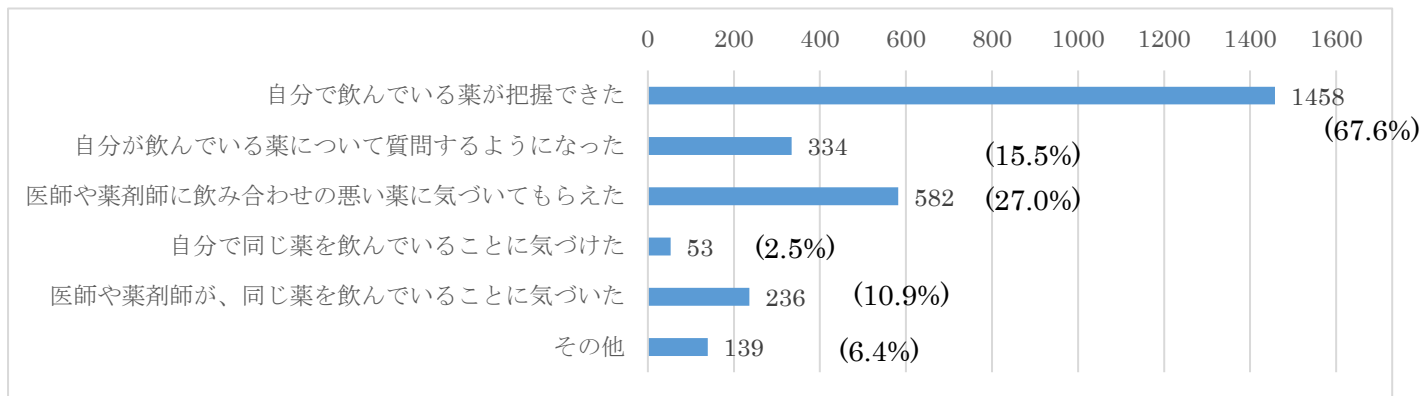


図 10 お薬手帳がどのように役に立ちましたか。(複数回答可) (0内は役に立ったことがあると回答した人 (2,156名) に占める割合)

○今飲んでいる薬の量について、36.2%が薬が多いと思っていることがわかった。一方で、少ないと思っている患者はほとんどいないことがわかった(2.3%)。また、適正な量だと思っている患者は36.0%で、とくに何とも思っていない患者は25.5%いることがわかった。それぞれの患者の服用している薬剤数をみると、薬が多いと感じている患者においては5種類以上の方が多かった。

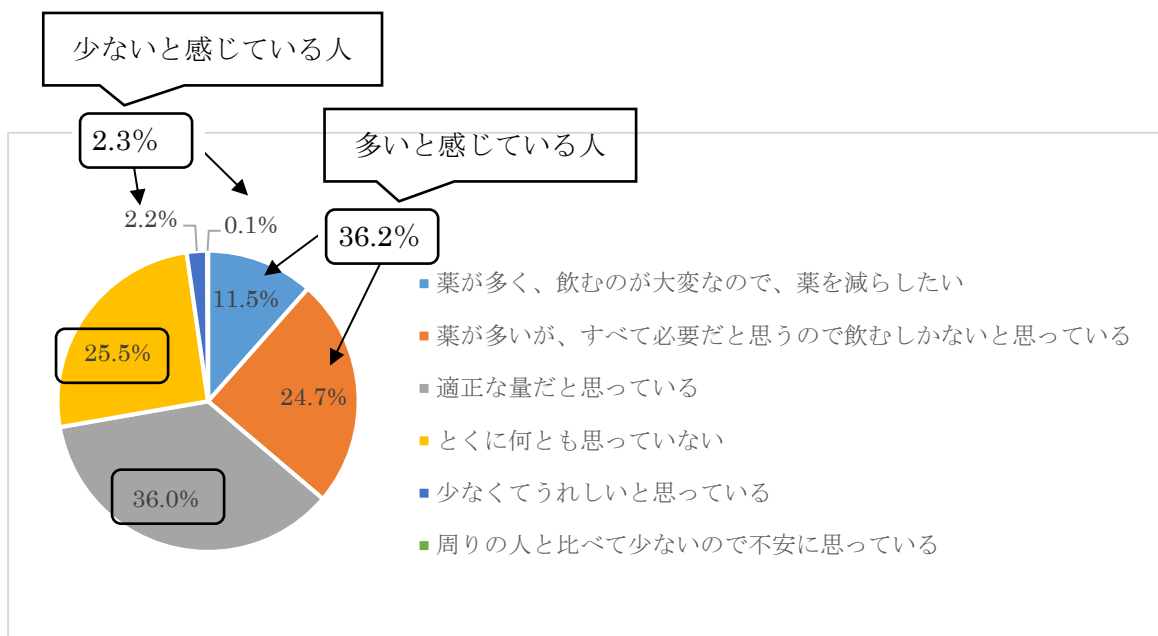
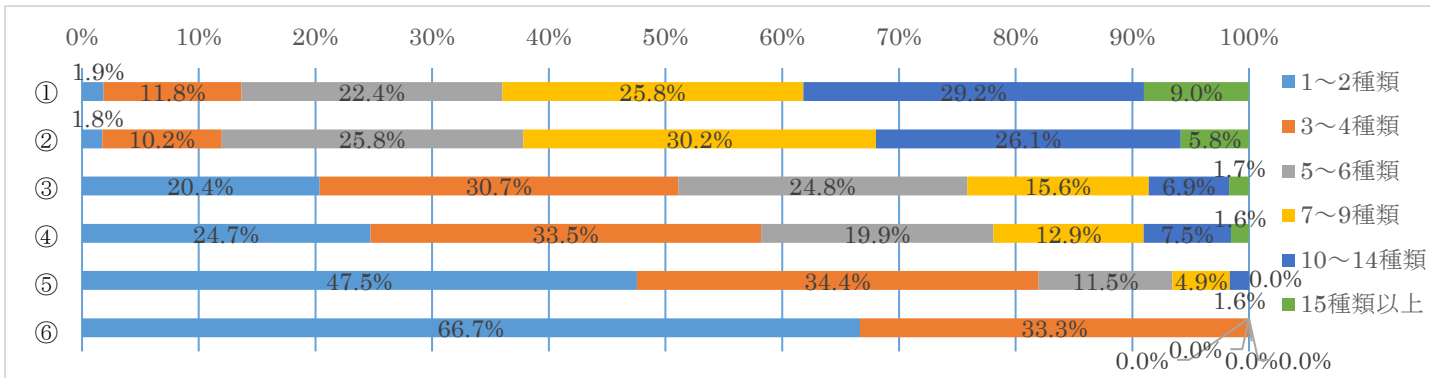


図 11 今飲んでいる薬の量についてどう思っていますか。(n=2,800)



- ① 薬が多く、飲むのが大変なので、薬を減らしたい
- ② 薬が多いが、すべて必要だと思うので飲むしかないと思っている
- ③ 適正な量だと思っている
- ④ とくに何とも思っていない
- ⑤ 少なくてうれしいと思っている
- ⑥ 周りの人と比べて少ないので不安に思っている

図 12 今飲んでいる薬の量についてどう思っているかの各項目ごとの服用薬剤数の割合(n=2,781)

○今飲んでいる薬の量についてどう思っているか、患者の服用している薬剤数ごとにみると、服用薬剤数が1~4種類と比べ5種類以上の患者で、有意に薬が多いと感じていることがわかった。(p<0.01)

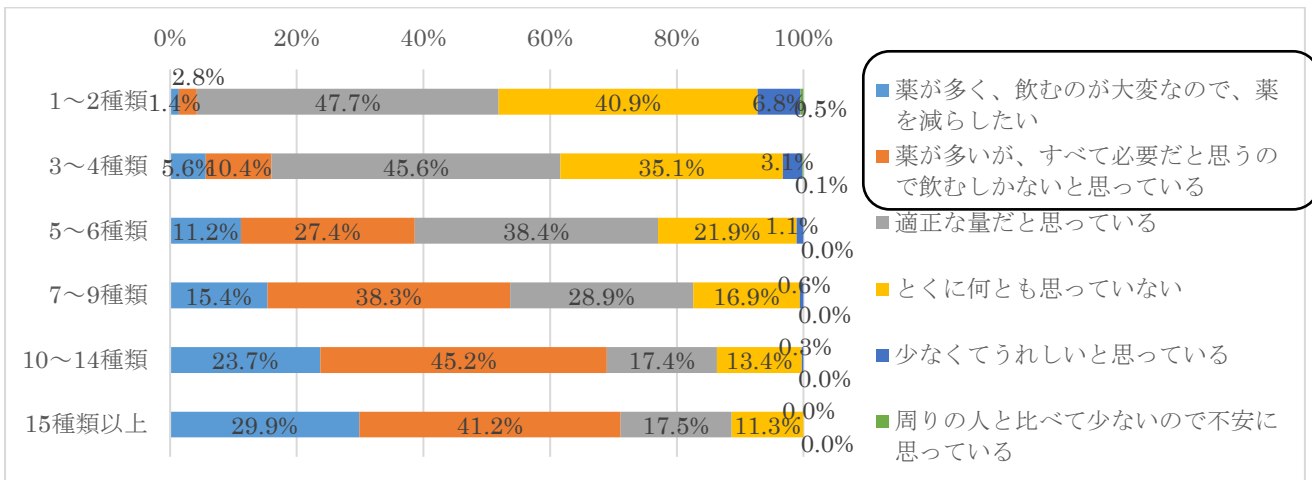


図 13 服用薬剤数ごとにみた、今飲んでいる薬の量についてどう思っているか (割合) (n=2,855)

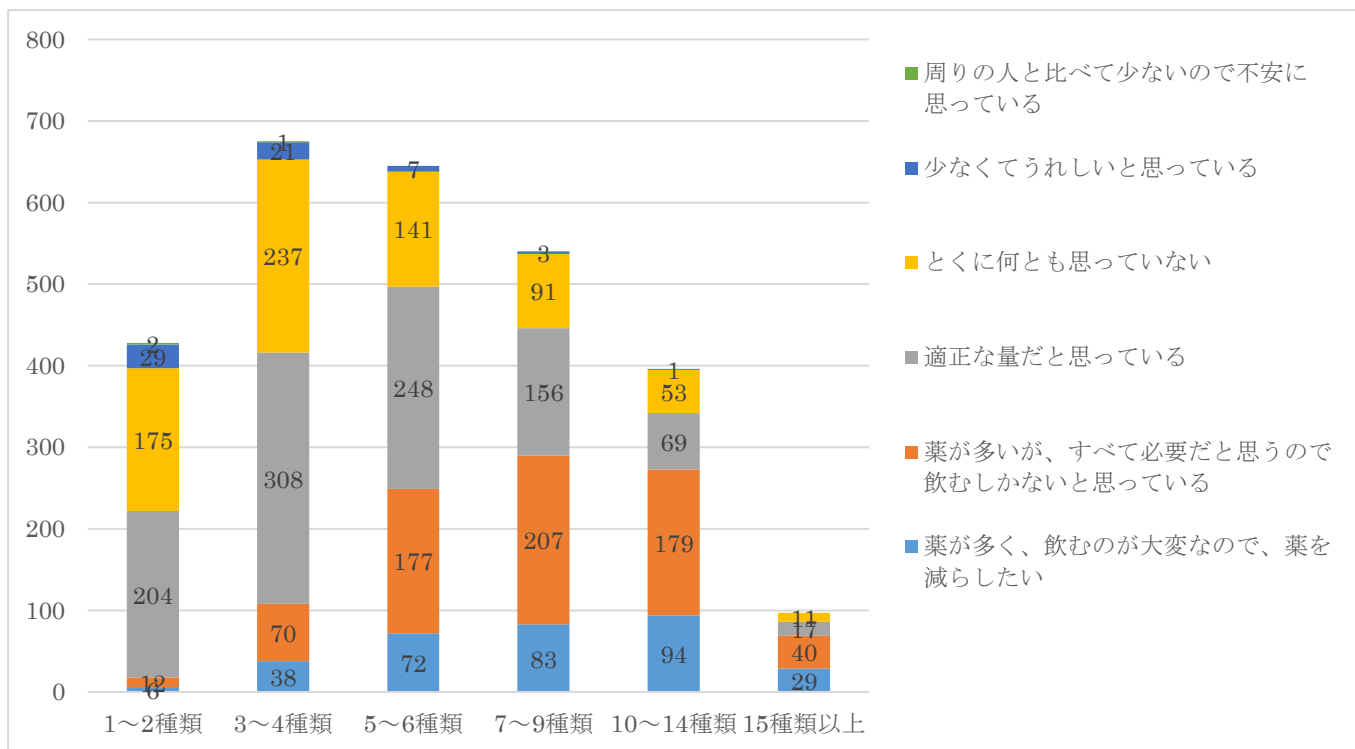


図 14 服用薬剤数ごとにみた、今飲んでる薬の量についてどう思っているか (回答数) (n=2,781)

○25.5%の患者が薬を減らしたいと医師や薬剤師に相談したことがあるとわかった。相談先としては医師が多かったが薬剤師のみに相談する患者も一定程度いた。また、薬が多いと思っている患者のうち、薬を減らしたいと思っている患者の59.5%は薬を減らしたいと医師や薬剤師に相談している一方、すべて必要だと思うので飲むしかないと思っている患者はその半分程度(31.6%)しか相談していないことがわかった。

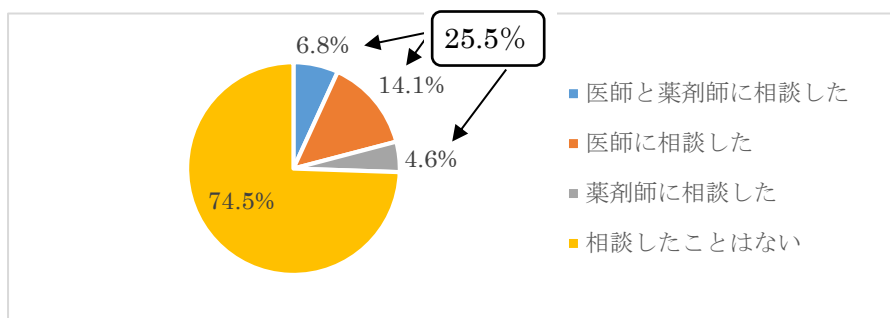


図 15 薬を減らしたいと医師や薬剤師に相談したことはありますか。(n=2,796)



表 6 今飲んでいる薬の量についてどう思っているかの各項目ごとにおける薬を減らしたいと医師または薬剤師への相談の有無

	医師または薬剤師に相談した割合	医師または薬剤師に相談した(人)	相談したことはない(人)	総計(人)
薬が多く、飲むのが大変なので、薬を減らしたい	59.5%	191	130	321
薬が多いが、すべて必要だと思うので飲むしかないと思っている	31.6%	217	470	687
適正な量だと思っている	20.9%	209	793	1002
とくに何も思っていない	10.9%	77	627	704
少なくてうれしいと思っている	15.0%	9	51	60
周りの人と比べて少ないので不安に思っている	0.0%	0	2	2

○薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減った際に、“飲み負担が減ってうれしい”と思う患者が多くいることがわかり、一方で、減らさないでほしいと思う患者は少ないということが分かった。また、実際に薬局が病院に問い合わせ、薬が減ったことがある患者は 20.3%おり、そのうちの 92.6%で薬剤師からどうして減るのかの説明があったことがわかった。薬剤師への減薬希望相談の有無と、薬局から病院に問い合わせ、薬が減ったことの有無の関係について見てみると、相談したことがない患者では、減ったことがあると答えた患者は 13.2%しかいなかったが、薬剤師に相談した患者では 6 割程度の患者で、薬が減ったことがあることがわかった。

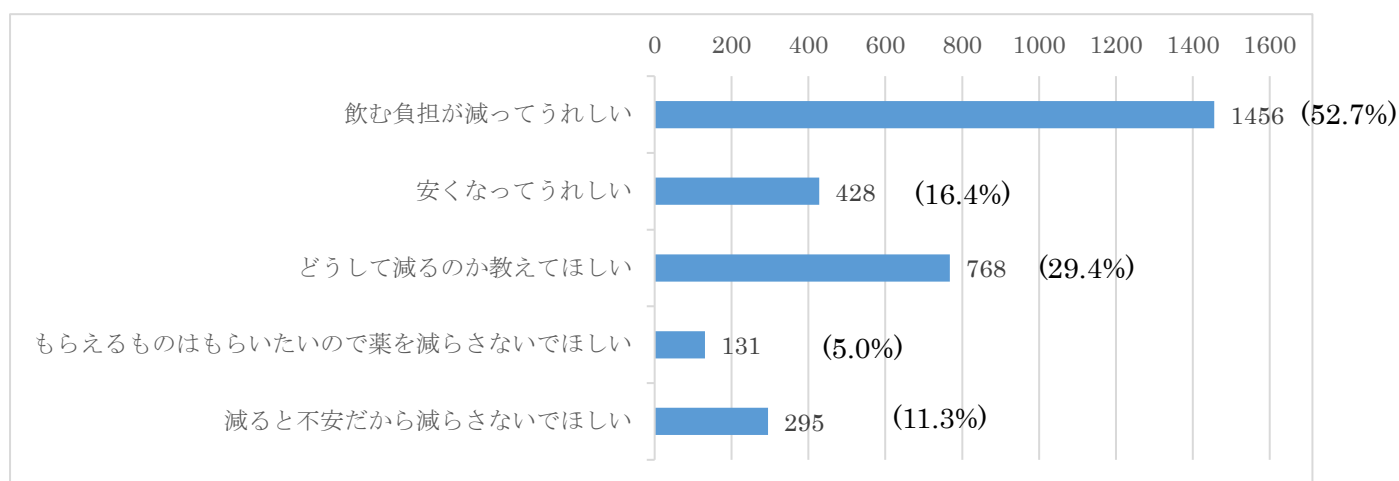


図 16 薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減ったら、どのように思われますか。(複数回答可) (n=2,616) (0内は回答者 (2,616名) に占める割合)

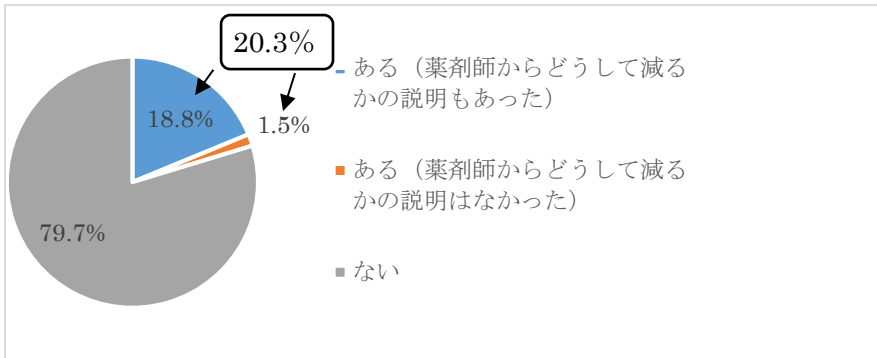


図 17 薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減ったことがありますか。(n=2,773)

表 7 薬剤師等への減薬希望相談の有無と薬局から病院に問い合わせ薬が減ったことがあるかの関係 (n=2,050)

	減った経験の有無		総計(人)	減った経験有りの割合
	ある	ない		
医師と薬剤師に相談した	113	75	188	60.1%
薬剤師に相談した	71	52	123	57.7%
相談したことはない	271	1779	2050	13.2%

○別の病院から同じ薬が処方されているか、気にしたことがあるかについては、同じ薬を重複して飲みたくないの、自分で確認している患者は 17.7%おり、医師・薬剤師等が管理しているので、気にする必要はないと思っている患者は 26.5%いた。また、55.0%で気にしたことがない(考えたことがない)ことがわかった。薬が足りなくなるので、別の病院で同じ薬をもらうようにしている患者は 0.7% (20 人) とほとんどいないことがわかった。



図 18 別の病院から同じ薬が処方されているか、気にしたことがありますか。

○「ポリファーマシー」について理解していない患者は 95.1%おり、理解している患者はほとんどいなかった。

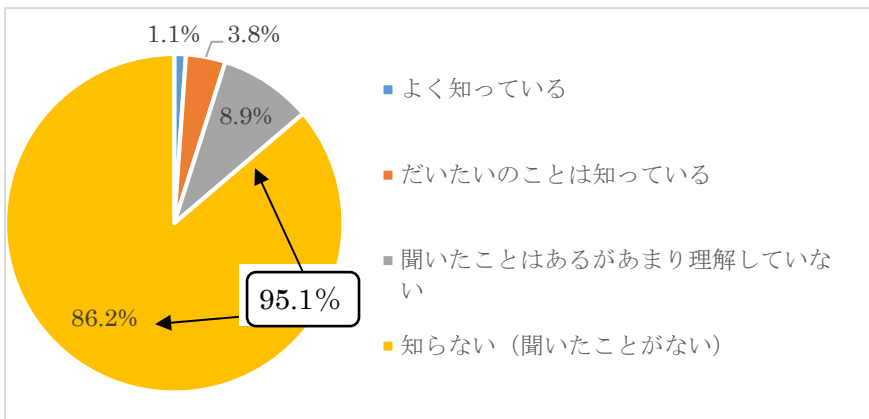


図 19 「ポリファーマシー」について知っていますか。(n=2,801)

○その他自由記載欄には、薬局等に対する前向きな意見や、ポリファーマシー対策に関する意見、要望・不満等の意見が別紙のとおり寄せられた。

表 8 自由記載（一部抜粋）

薬局等に対する前向きな意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ薬剤師がいるのですべて任せています。</li> <li>・ こちらの薬局で他院の処方薬もお薬手帳で見てもらっているので安心して服用できる。</li> <li>・ 薬が多いと薬局の人に相談したら薬が減った。</li> </ul>
ポリファーマシーに対する前向きな意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なるべく不要な薬は飲みたくない</li> <li>・ 薬の重複が気になる</li> <li>・ 体調が良くなって薬が減るなら嬉しい。</li> <li>・ 副作用が気になるから薬を減らしたい。</li> </ul>
ポリファーマシーに対する後ろ向きな意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心臓のこともあるから減らせばいいってもんじゃないだろ！</li> <li>・ お薬が減ることに不安を持っている。</li> </ul>
自身の薬の管理についての意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬の管理をしてもらおうと思っているからお薬手帳はいつも持っているし、重複しないように他の病院にはかからないようにしている。</li> <li>・ 知らない薬は飲まない</li> <li>・ 薬の種類が多いので、間違わないように、袋に分けている。</li> </ul>
要望・不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院した時にいつも院外の薬局でもらう薬と違うことがあり、不安を感じた。</li> <li>・ 薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減ったら、不審に思う（病院に対して）</li> <li>・ 市販で買う薬を医師にお願いしたが、処方してもらえなかった。処方</li> </ul>

	<p>してほしかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬を減らしたいとは思いますが、自分は素人なので相談しにくい。</li> <li>・ 薬局を1箇所にしたいが処方薬があるか(ジェネリックで良い)分からないので医療施設とそばの薬局にそれぞれいくようになる。</li> </ul>
--	---

### 3. 考察

○ほとんどの患者(94.4%)でお薬手帳を1冊のみで管理していることがわかった。一方、2冊以上紙のお薬手帳を持っている患者(2.9%)の7割でお薬手帳を適切に持参できていなかった。病院や薬局でお薬手帳を1冊にまとめるよう指導されることにより、お薬手帳を1冊にし、どの病院・薬局に行くときにも同じ1冊を持っていくようになっていると推測されたことから、医療機関からお薬手帳に関する指導が大切だと考える。(図6、表4、図9)

○上記の医療機関からの指導だけではなく、患者自身にお薬手帳の適切な使用を促す啓発が必要だと再認識した。お薬手帳が役に立ったことがある患者が多く(75.9%)、お薬手帳を医療機関で活用できると実感した患者だけでなく、自分自身でもその有用性を実感している患者もいたことから、啓発する上ではそのような点も伝えるのが効果的だと考える。(表5、図10)

○36.2%の患者が薬が多いと感じていて、そのほとんどが5種類以上服用していた。また5種類以上となると有意に薬が多いと感じることがわかった。また、薬が多いと感じていて、減らしたいと思っている患者は医師や薬剤師に減薬希望の相談ができていますが、薬が多いと感じているが、すべて必要だと思っているので飲むしかないと思っている患者では、その半分程度しか減薬希望を医師・薬剤師に伝えられていなかった。ポリファーマシーについて理解している人がほとんどいなかったことから、一般向けのポリファーマシーの啓発を今以上にしていかなければならないが、少なくとも、5種類以上の患者に対してポリファーマシーの啓発をすることは有用であると考え。(図11、図13、表6、図19)

○薬局から病院に問い合わせた際に薬が減った際に半数(回答者の55.7%)の患者は飲む負担が減ってうれしいと思うことがわかった。また、薬局から病院に問い合わせた際に薬剤師からどうしてその薬が減るのかの説明はほとんどのケース(92.6%)で行われていたが、患者もどうして減るのか教えてほしいと思っている患者がある程度(回答者の29.4%)いたことから、どうして減るのかについて引き続き丁寧に説明する必要があると考える。(図16、図17)

● 薬局等に対する前向きな意見

- ・ かかりつけ薬剤師がいるのですべて任せています。
- ・ こちらの薬局で他院の処方薬もお薬手帳で見てもらっているので安心して服用できる。
- ・ 薬が多いと薬局の人に相談したら薬が減った。
- ・ 別の病院からもらった薬をまだ飲んでいて、時々確認されることがあるので、安心できます。
- ・ お薬手帳の記載内容から、以前飲んでいて効果があった薬や副作用があった薬がまた出ているので、医師に確認してもらって削除してもらったりして、お薬手帳は大事だと思った。
- ・ お薬手帳の記載内容から、以前飲んでいて効果があった薬や、副作用があった薬はもう処方されないように注意できたりと、医師との話にも活用しやすい。
- ・ 医師よりも薬局の方が相談しやすいので、相談に乗りやすい雰囲気を作ってほしい。
- ・ 家庭のことなど色々気軽に相談できて、いい薬局だと思っています
- ・ 今年の春頃に薬局の人に相談して薬が3種類も減った。
- ・ 薬のことについては病院では時間も短く聞きにくいですが薬局では薬剤師の方が「わからないことや聞きたいことはないですか?」と言ってくれるので問い易い。又、薬の詳しい説明書があるので理解できてよいです。
- ・ (吸入の仕方を間違えていた患者様) 薬局での説明が大切な役割をもっているとつくづく感じました。
- ・ 皆に親切にしてもらって満足しています。
- ・ 繁忙なのに説明が明確。副作用の早期発見、アドバイスを頂き服用数が減らせた。
- ・ お薬手帳を持参することで、自己管理まではいかないが、病院・薬局で確認してもらっている安心感がある。
- ・ 新しい薬が処方された時は、医師の説明だけでなく、薬剤師が重複薬がないか、飲み合わせなどをチェックして、説明してくれるので安心している。
- ・ かかりつけの薬剤師さんが気づいてくれるので安心
- ・ 安心して薬を貰っている。
- ・ 病院、薬局の対応に満足している。この病院、この薬局と思っている。
- ・ 薬以外のことでも日常生活での過ごし方(食事のとり方、内容、運動等)についても優しく丁寧にアドバイスして下さるのでとてもありがたいです
- ・ 医師は忙しそうなので、薬の管理を聞きやすい薬剤師にお願いしたい
- ・ 薬局は医師以上に詳しいので助かっている
- ・ 現在は薬剤師の方のご指導で安心した日々を過ごしている
- ・ 薬局で薬を渡されるときに薬の内容を説明して下さる。
- ・ いろんなことを尋ねて下さることは安心がふえる。
- ・ いつもありがとうございます。(計3件)
- ・ 待ち時間が少なく助かります。
- ・ 今かかっている医師が体調のことで相談にのってくれるので、安心できます。ただ多忙なせい、少し早口で説明されるので、少し聴力低下した私にとって聞きづらい時があります。

- ・ 医師によく相談しているので不要なものはもらってない。
- ・ 歯医者さんで飲んでる薬がわかって、たすかったことがある。

### ● ポリファーマシー対策に対して前向きな意見

- ・ なるべく不要な薬は飲みたくない
- ・ 薬の飲む量は減った方がよい
- ・ 薬が多い
- ・ あまり薬は飲みたくない。
- ・ 薬の重複が気になる
- ・ 体調が良くなって薬が減るなら嬉しい。
- ・ 副作用が気になるから薬を減らしたい。
- ・ 再度減薬を相談する予定
- ・ とにかく自分に合ったお薬で量が少なくなればよい。
- ・ 今日からお薬手帳を1冊にまとめる。
- ・ 母の薬をみても確かに飲む量は多いと思います。直接の病名はなくても相互作用を考えての投与など必要なものだと思いますがやはり減ると本人も嬉しそうです。
- ・ 薬代が増えると健保組合に迷惑がかかるなど思う、なるべく減らしたい。(テレビなどで医療費や薬代が増えていると聞くから)
- ・ 入院時に持参薬を確認する時に病院薬剤師が気がついてお薬の重複を免れた。

### ● ポリファーマシー対策に対して後ろ向きな意見

- ・ 心臓のこともあるから減らせばいいってもんじゃないだろ！
- ・ お薬が減ることに不安を持っている。
- ・ どの薬が必要でどれが不必要か自分で判断できないので処方が出た通りに飲んでいきます。飲みすぎではないかと心配はあります。

### ● 自身の薬の管理についての意見

- ・ 薬の管理をしてもらおうと思っているからお薬手帳はいつも持っているし、重複しないように他の病院にはかからないようにしている。
- ・ 知らない薬は飲まない
- ・ 薬の種類が多いので、間違わないように、袋に分けている。
- ・ 薬をきちんと飲んでいるが心不全なのできつい。きついが医師は調子よいのでこれ以上飲まなくてよいと言う。
- ・ 薬の管理(夫婦2人分)のむずかしさ。
- ・ 他の人からお薬の飲み方が変だといわれることがある。喉にひっかからないよう気を付けている。薬を飲む時は1種類ずつ首を上げて服用している。
- ・ 普段から薬はあまり飲みたくないと思っているので、常日頃から処方内容は少なくしてもらっている、今の内容が一番精査された内容なのでこれ以上は減らして欲しくない。

## ● 要望・不満

- ・ 入院した時にいつも院外の薬局でもらう薬と違うことがあり、不安を感じた。
- ・ 薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減ったら、不審に思う（病院に対して）
- ・ 市販で買う薬を医師にお願いしたが、処方してもらえなかった。処方してほしい。
- ・ 薬を減らしたいと思うが、自分は素人なので相談しにくい。
- ・ 薬局を 1 箇所にしたが処方薬があるか（ジェネリックが良い）分からないので医療施設とそばの薬局にそれぞれいくようになる。
- ・ 症状がよくなり中止している薬が処方された。薬剤師が気づいて医師に確認後処方カットになったがお薬代が少し高くなった。その事が疑問で、納得いかない。
- ・ 薬は医師が、減らしてくれたことがあったが、あたらしく症状がでて、薬が増えたため、トータルの錠数はわからない。
- ・ お薬手帳に何の薬かや、写真がほしい。
- ・ 医療費が多くなるのでジェネリックを使うのがいいと思う
- ・ できるだけジェネリックにしてもらえると助かる
- ・ 薬の飲み合わせを教えてください。
- ・ 他の病院の薬についても意見が欲しい
- ・ 健康や病気について色々教えてください
- ・ もう少し薬の説明を詳しくしてほしい。
- ・ 薬の数が多いため、間違わないようにしてほしい。
- ・ 予防薬を出してほしい
- ・ 薬の説明書が他の薬局に比べて大きいのでかさばる。もっと紙を小さくしてほしい。
- ・ 薬をなるべく早く出してほしい。
- ・ 時間外に付き添いの関係で、薬がもらいたい。

## ● その他

- ・ 薬をのみ続けることで副作用が心配になる。
- ・ 同じ薬剤を長期で服薬しているため少し心配
- ・ 今現在、目薬のみで薬は飲んでいない。
- ・ 過去に沢山の薬を服用して、数値が上がって入院して薬の数を減らした経験がある。
- ・ 以前かゆみが出たことがあったので先生に伝えた

## ① 年齢及び性別

1. 65～74 歳 男性
2. 65～74 歳 女性
3. 75 歳以上 男性
4. 75 歳以上 女性

## ② 何種類の薬を飲んでいますか。

1. 1～2 種類
2. 3～4 種類
3. 5～6 種類
4. 7～9 種類
5. 10～14 種類
6. 15 種類以上

## ③ 定期通院されている診療科はいくつありますか。

1. 1 診療科
2. 2 診療科
3. 3 診療科
4. 4 診療科
5. 5 診療科以上

## ④ お薬手帳はもっていますか。

1. 1 冊のみもっている（紙媒体）
2. 1 冊のみもっている（電子版）
3. 紙のお薬手帳を 2 冊以上持っている（ページがいっぱいになったものは含まない）
4. 紙のお薬手帳と電子版のお薬手帳を持っている
5. 持っていない

## ⑤ 病院・薬局にお薬手帳を持って行きますか。

1. どの病院・薬局に行くときも同じ 1 冊を持って行く
2. 決まった 1 冊はないが 1 冊は持って行く
3. 病院・薬局ごとに 1 冊ずつ持って行く
4. 持って行かないことが多い
5. 持って行かない
6. そもそも持っていない

## ⑥ 病院や薬局でお薬手帳を 1 冊にまとめるよう言われたことがありますか。

1. 病院で言われた
2. 薬局で言われた
3. 病院でも薬局でも言われた
4. 言われたことはない

## ⑦ お薬手帳が役に立ったことがありますか。

1. ある
2. ない

## ⑧ お薬手帳がどのように役に立ちましたか。（複数回答可）

1. 自分で飲んでいる薬が把握できた
2. 自分が飲んでいる薬について質問するようになった
3. 医師や薬剤師に飲み合わせの悪い薬に気づいてもらえた
4. 自分で同じ薬を飲んでいることに気づけた
5. 医師や薬剤師が、同じ薬を飲んでいることに気づいた
6. その他（ ）



⑨ 昨年（平成 30 年）、福岡県や市町村、協会けんぽからお薬手帳ホルダーが送られてきましたか。

1. 自分あてにのみ届いた
2. 自分には届かなかったが家族には届いた
3. 自分にも家族にも届いた
4. 届いていない

⑩ 薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減ったことがありますか。

1. ある（薬剤師からどうして減るかの説明もあった）
2. ある（薬剤師からどうして減るかの説明はなかった）
3. ない

⑪ 今飲んでいる薬の量についてどう思っていますか。

1. 薬が多く、飲むのが大変なので、薬を減らしたい
2. 薬が多いが、すべて必要だと思うので飲むしかないと思っている
3. 適正な量だと思っている
4. とくに何とも思っていない
5. 少なくてうれしいと思っている
6. 周りの人と比べて少ないので不安に思っている

⑫ 薬を減らしたいと医師や薬剤師に相談したことはありますか。

1. 医師と薬剤師に相談した
2. 医師に相談した
3. 薬剤師に相談した
4. 相談したことはない

⑬ 薬局から病院に問い合わせ、薬の種類や服用数が減ったら、どのように思われますか。（複数回答可）

1. 飲む負担が減ってうれしい
2. 安くなってうれしい
3. どうして減るのか教えてほしい
4. もらえるものはもらいたいで薬を減らさないでほしい
5. 減ると不安だから減らさないでほしい

⑭ 別の病院から同じ薬が処方されているか、気にしたことがありますか。

1. 同じ薬を重複して飲みたくないで、自分で確認している
2. 医師・薬剤師等が管理しているので、気にする必要はないと思っている
3. 薬が足りなくなるので、別の病院で同じ薬をもらうようにしている
4. 気にしたことはない（考えたことがない）

⑮ 「ポリファーマシー」について知っていますか。

1. よく知っている
2. だいたいのことは知っている
3. 聞いたことはあるがあまり理解していない
4. 知らない（聞いたことがない）

⑯ その他気づいたことをご記入ください。（自由記載欄）